

むこブルブルの取組について

三田市モビリティサービス実証推進協議会
令和7年10月8日



①目的

- 高齢化が進展する武庫が丘地区において、グリーンスローモビリティ(小型低速モビリティ)を活用した新たな移動手段による、センター地区へのアクセスを確保し、自力で移動できる人の外出頻度の増加や外出範囲の拡大を図る。

②経緯

- 令和4年～6年の3年間、各年度において期間を設定して実証実験を実施。
- 令和6年度に有償での実証実験にて一定の結果を確認し、令和7年度1月頃から通年で運行を行う予定。
※ただし、通年運行時には持続性を高めるため、運行日数等について再度検討する。

③特徴

- 多様な関係者で構成(市、武庫小校区まち協、交通事業者、北摂コミュニティ開発センター等)する三田市モビリティサービス実証推進協議会が事業主体となって運営。
- 武庫小校区まち協が運行だけでなく、ルート、運行日数、ダイヤ、運賃等の運行概要から、ドライバーの確保、運行管理まで主体的に携わり、運営している。



運行期間 10/1 ~ 11/26

運行曜日 火・水・金・土・日

運行便数 6便／日、定時定路線

運行手法 自家用有償旅客運送

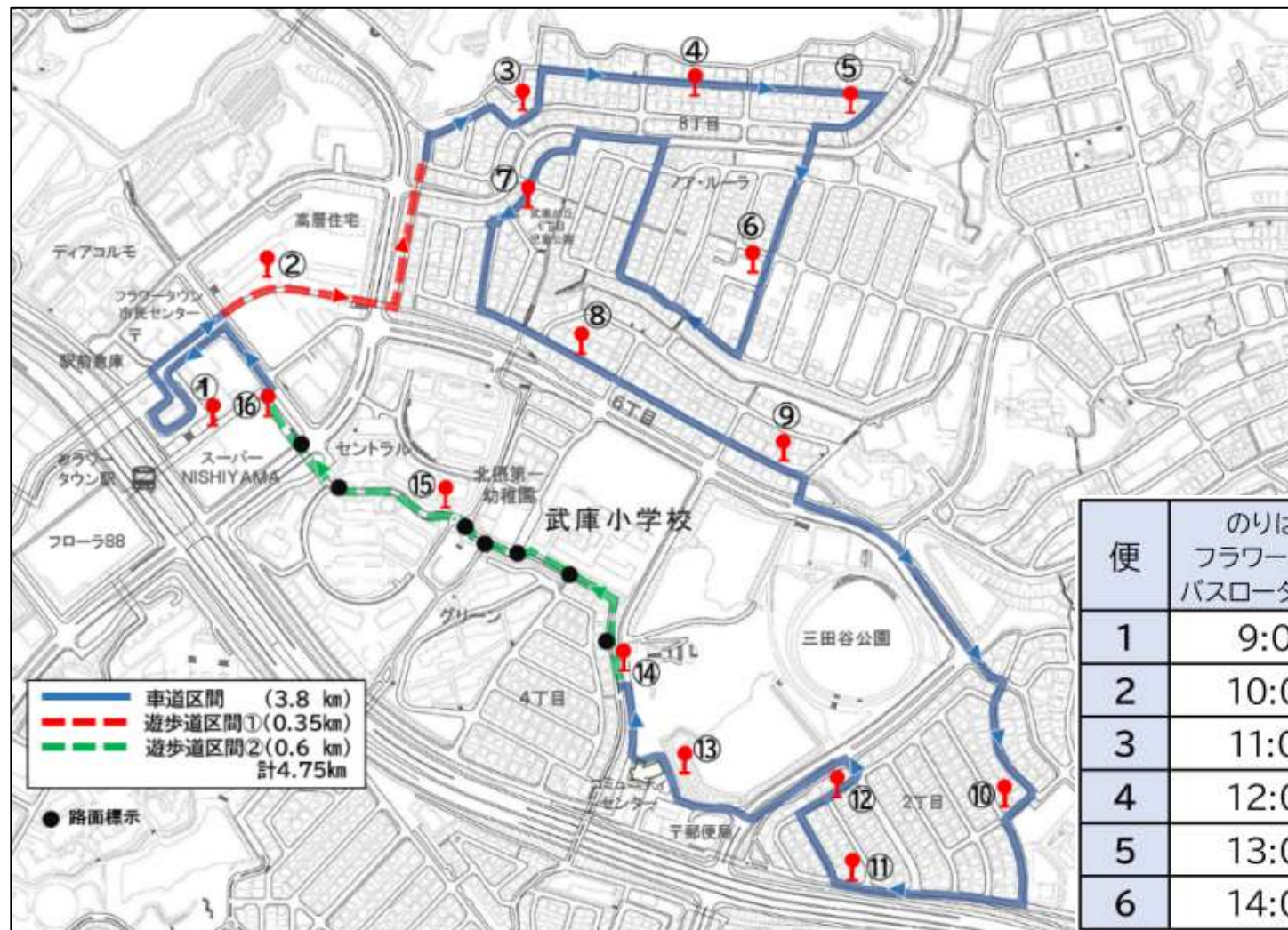
運行時間 9時00分～14時(毎時00分発)

ドライバー 地域ボランティア16名

車両 ヤマハAR-07(7人乗り)



運行ルート



運賃

期間中 定額1,000円

むこぐるぐる応援券 No.24-A-004

わたしは、むこぐるぐるを応援しています！

有効期限
2024/10/1～
2024/11/26 まで

¥1,000 円

三田市モビリティサービス実証推進協議会

便	のりば① フラワータウン バスロータリー発	のりば⑬ 武庫が丘 コミセン	のりば⑯ スーパーマーケット NISHIYAMA前着
1	9:00	9:25	9:30
2	10:00	10:25	10:30
3	11:00	11:25	11:30
4	12:00	12:25	12:30
5	13:00	13:25	13:30
6	14:00	14:25	14:30

- 延べ乗車人数は716人、1便当たり利用者数は平均3人が利用。
- 利用者の77%が複数回利用。
- 利用者層は、70歳代以上が68%を占め、買い物目的の利用が約80%と多かった。その他、郵便局や病院、市民センターの利用等もあり。



⇒ 有償化したにも関わらず、**平均3人**(乗車定員6名)**が利用**された。

R4年度

- ・11/10～12/23
→1日7便
→1便あたり平均1名乗車



R5年度

- ・8/16～10/17
→1日6便(ダイヤ変更)
→一便あたり平均3名乗車

・ルート変更
(ノア・ルーラガーデン追加)

・車両変更(4人→7人乗り)

・安全対策の強化



自家用有償旅客運送とは

交通事業者による輸送サービスの提供が困難な場合に、交通手段確保の役割を担う制度。

制度の活用には、**関係者による協議**を経た上で、**道路運送法の登録**を受ける必要がある。

運転者の要件について

「2種運転免許保有」又は「1種運転免許保有＋**大臣認定講習**の受講」が必要

大臣認定講習……安全運転の基礎知識、運転適性に関する講座等

◆高齡化の進展による問題の顕在化

高齡化の進展により、自転車に乗車できない又はバス停まで歩けない方が増えること等により、移動に困る地域が増える可能性がある。

◆武庫が丘地区によるグリーンスローモビリティの導入

- ・武庫が丘地区では「目的地がセンター地区に集約されていること」「センター地区まで道路が整備されていること」「コミュニティの活性化」等により、グリーンスローモビリティが車両として最適であると考えた。
- ・実証実験で地域としてもサービスが必要であることを確認しつつ、最適な運行手法を模索した。

◆横展開について

- ・フラワータウンの他地域においても武庫が丘地区とまちづくりは類似しているため、グリーンスローモビリティが車両として適する可能性がある。また武庫が丘地区での通年運行が見えてきたため、三田市モビリティサービス実証推進協議会として横展開も視野に。
- ・しかし横展開については、武庫が丘地区での実例を参考にしながら、地域で解消したい移動の物事等から考え、車両は何が適しているのか、運行概要や運行手法等について地域と考える必要がある。